

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、東京都立忍岡高等学校の家庭科教諭・高橋靖子先生が、必修科目である高等学校・家庭科の授業で取り組む金融教育についてご紹介します。

高校家庭科と金融教育

高橋先生が勤める東京都立忍岡高等学校では、東京都23区内で唯一、家庭科の専門学科である「生活科学科」を設置しています。栄養士や調理師を目指す食物科学系、デザイナーやパターナー、スタイリストなどを目指す服飾・デザイン系、保育士や幼稚園教諭、

介護福祉士を目指したり、インテリアデザインを学んだりする総合系の各専門分野の科目を選択しながら、将来希望する進路を目標にスペシャリストを目指す生徒たちが学んでいます。

高等学校での家庭科には、「一人ひとりが自分の人生をよりよく生きるために必要な知識や実践力を身に付けさせる」という教育目標があります。「家庭総合（4単位）」「家庭基礎（2

単位）」「生活技術（4単位）」のいずれかが必修で、同校で1年次に学ぶ「家庭総合」は4単位、140時間の授業時間数があります。金融教育は、一連の指導項目の中で、身近

な生活の中にある経済を学ぶ『消費生活と資源・環境』の単元で学ぶこととなりますが、「ほかにも学ばなければならぬ項目は、家族・保育・高齢者福祉・衣食住と非常に多岐にわたります。本校でも、『消費生活と資源・環境』に充てられる授業時間は16時間程度にすぎません。大半の普通科の進学校では2単位の『家庭基礎』を履修しますから、さらに半分になってしまいう計算です」と高橋先生。大切な学習も高等学校の判断次第では、入り口程度しか学べない問題点を指摘します。

高校生対象の金融教育における授業展開

高等学校家庭科の『消費生活と資源・環境』で必要な指導内容は、(1)消費行動と意思決定、(2)家庭の経済生活、(3)消費者の権利と責任、(4)消費行動と資源・環境です。高



東京都
東京都立忍岡高等学校
高橋靖子教諭

橋先生は「自立した消費者」「金融トラブル・多重債務の実態と対処法」「家庭経済と家計管理」「長期的資産管理」をカリキュラムの柱とし、手作りのプリントを用いて16時間の授業を構成しています(表1)。

例えば、「自立した消費者」の單元では、「契約って何?」という切り口から、さまざまな消費者トラブルを例に、「契約と自己責任」「様々な問題商法」を理解。ニュースなど身近な話題になっている具体例を出して生徒自身にも考えさせ、その対策や消費者の権利について学びます。同時に、具体的な相談窓口などを紹介し、「まず誰かに相談する、自分一人で抱え込まない」ことを繰り返し伝えていきます。

「家庭経済と家計管理」の單元では、税金や家計の収入と支出、正社員やアルバイトなどの働き方による収入の違いを、資料を用いて明らかにします。さらに、一人暮らしを想定した1カ月の生活費の収支を考えるワークシートを個々に作成し、「自分の問題」として意識させる授業を展開しています。生徒たちは、1カ月の食費の計算にも苦戦。栄養バランスを考えつつ、自分の食いたいメニューを予算内でやりくりする苦労を実感し、一人分の料理は材料費だけで高つく場合があり、

【表1】高橋先生の『家庭総合・消費生活と資源・環境』カリキュラム

学習項目	時数	主な学習内容	演習・VTR
自立した消費者	1	契約と自己責任	—
	1	様々な問題商法	ビデオ「ミッションR3悪質商法撃退作戦」30分
	2	問題商法に対する対策と契約解除の方法 ・クーリングオフ制度 ・消費者契約法 ・中途解約	ビデオ「だまされないで!!悪質商法Noと言わなきゃダメだニャー」14分/25分 演習「3つの事例について対応策を考え、契約解除通知を書く」
クレジット	2	クレジットとは クレジットの特徴と利用上の注意 カードの種類と支払い方法の違い	演習「分割払いとリボルビング払いの返済金額の計算」
ローンと多重債務	2	ローンとは 金利と利息制限法 多重債務とは 多重債務の対応策	演習「金利計算」 ビデオ「アリtoキリギリスの!!多重債務にご用心」22分
家庭経済	2	家計と国民経済との関係 税金の種類 家計の収入と支出	演習「家計の収入と支出の分類」
家計管理	1	収入を得るには 様々な働き方による収入の違い	演習「正社員とフリーターの生涯収入の計算」
	1	1カ月に必要な食費	演習「理想的な食費の算出」
	2	一人暮らしの家計管理 家族を持った場合の家計管理	演習「家計管理」
長期的資産管理	3	住宅ローンのポイントと健全なローンの組み方 ライフコースの設計	演習「住宅ローン」 演習「経済設計」



ることの大切さを痛感し、やりくりしている親を尊敬し、親に感謝したい」という感想を口にします。さらに将来に向けて、「自己資金を計画的に蓄えることの必要性」「長期の生活を踏まえたローンの返済計画を考える大切さ」「安定した収入がなければ資金計画を立てることも難しいこと」などにも理解が深まっていくといいます。

「特に将来を想像するのは楽しいため、生徒たちはこうした授業には意欲的に取り組みます。ただ、お金に苦勞をしたことのない生徒は家の光熱費がいくらなのかも知りませんし、年収1億円とか、豪邸を建てようとか、宝くじを収入に見込むなど、現実離れた将来像を持つ生徒も少なくありません。一方で、お金の苦勞する親の姿を見てきた生徒ほどお金の価値や

節約に対する意識も高く、堅実なライフプランを立てています。総じて、経済的に夢を持っていない生徒が多い中で、実際に達成可能と考えられる収入を計画立てていくと、夫婦で安定した職場に勤め、定年まで働き続けるというライフプランが最も理想的という、夢が持ちにくい現実が顕れてくるのが最近の傾向です」と高橋先生。

高等学校の金融教育、「理想」と「現実」

お金を稼いだことのない高校生にとつて、ライフプランは「理想」であり「現実」とは異なります。想定収入以上に高いマイホームを購入しようとして、最終的に「残せる財産」がマイナスになってしまい、現実理想通りにはいかないことを、生徒たちもワークシート上で実感していきます。そんな生徒たちを見守りながら、高橋先生は、「家庭科では、消費するためにはまず働いて収入を得ること、使えるお金には限りがあること、社会とつながりを持ち関わっていくこと、などの学習すべ

き事柄を明確にし、自分の人生で一番いい選択ができるように、その基本の考え方を勉強する場とすることが大事であると考えています」と話します。「高等学校で学ぶ家庭科は、知っておかなければ社会に出てから困る勉強ばかりです。自立した社会人となつて、日本の経済の活性化にも貢献できる賢い消費者を育てるためにも、私は必修授業として力を入れていただきたいと思っています」と話しています。



忍岡高等学校の生活科学科ではパソコン設備も整い、Excelで家計管理や栄養計算などを行う授業などの実践的な教育も行われている。

高校生の描くライフプランと向き合う高校家庭科

東京都
東京都立忍岡高等学校 高橋靖子教諭